

第30回 九州肝臓外科研究会

日 時 2008年7月26日^土 午前9時00分開始

場 所 ホテルマリターレ創世 東館 2F 日月の間
(旧ルネッサンスホテル創世)

〒830-0003 福岡県久留米市東櫛原町 900

TEL 0942(35)3511 FAX 0942(35)3599

当番世話人 新古賀病院 外科 草野 敏臣
(新宿海上ビル診療所)

共 催 九州肝臓外科研究会
株式会社大塚製薬工場

会場案内図



会場へのアクセス

- JR 久留米駅より車で約 5 分
- 西鉄久留米駅より車で約 10 分
- 久留米 IC より車で約 10 分
- 久留米市役所より車で約 5 分
- 久留米大学病院より車で約 3 分

お知らせ

1. 参加者へ

- 参加費3,000円を会場受け付けにてお支払い下さい。
- 参加者全員による懇親会を研究会終了後、春秋の間で行います。多数のご参加をお願いします。

2. 座長および演者の先生方へ

- 発表時間は、一般演題は口演5分・討論3分、ラウンドテーブルは口演6分・総合討論28分です。
各自、本抄録集にてご確認ください。
- PC プロジェクターによる発表の方は、トラブル防止のためできるだけご自分のPC(ノートパソコン)をご持参ください。
- 会場にはミニ D-SUB15ピンケーブルを用意します。これ以外の形状の出力端子の場合はアダプタをご自身でご持参ください。
- PCはMAC(OS 9.0以上)、Windows(2000またはXP)のどちらでも結構ですが、パワーポイント(2000、2002、2003)で作成したものに限りです。
- Vista、パワーポイント2007で作成されたデータはPC本体をお持ち下さい。

3. 世話人・幹事の方へ

7月26日(土) 12:10から、世話人会・幹事会を丹頂の間にて行います。

※お車で越しの方は、無料駐車場があります。

※できる限り、公共交通機関を御利用下さい。

※当日は昼食(弁当)を会場(万寿の間)にてご用意しております。

日程及び座長一覧

9:05	開会の辞 当番世話人 草野 敏臣 (新古賀病院 外科)	9:00~9:05
	I 肝切除手技：私の手法、工夫 座長：別府 透 (熊本大学 消化器外科) 谷脇 智 (聖マリア病院)	9:05~9:53
10:00	II-A 肝臓一般 座長：七島 篤志 (長崎大学 腫瘍外科)	9:53~10:25
	II-B 肝臓一般 座長：高見 裕子 (国立病院機構九州医療センター 肝臓病センター外科)	10:25~10:57
11:00	III 診断治療の工夫 座長：太田 正之 (大分大学 第1外科)	10:57~11:29
	教育講演 座長：山下 裕一 (福岡大学 外科学講座消化器外科)	11:30~12:10
12:00	「肝細胞癌治療における連携」 久留米大学医療センター 田中 正俊	
	昼休み 世話人会・幹事会	12:10~12:50
13:00	製品情報提供 「TPN製剤の進化」 大塚製薬工場 坂下 栄治	12:50~13:10
	IV 皆さんに聞きたい：この症例どうする？ 座長：上野 真一 (鹿児島大学 腫瘍制御学消化器外科)	13:10~13:42
14:00	II-C 肝臓一般 座長：伊佐 勉 (豊見城中央病院 外科)	13:42~14:14
	II-D 肝臓一般 座長：三好 篤 (佐賀大学 一般・消化器外科)	14:14~14:54
15:00	コーヒープレイク	14:54~15:10
	V 九州における肝移植 座長：武富 紹信 (九州大学大学院 消化器総合外科学)	15:10~15:42
16:00	ラウンドテーブル VI C型慢性肝炎後肝細胞癌に対する治療戦略 座長：才津 秀樹 (国立病院機構九州医療センター 肝臓病センター外科) 藤岡ひかる (国立病院機構長崎医療センター 外科)	15:42~16:40
17:00	特別講演 座長：草野 敏臣 (新古賀病院 外科) 「肝細胞癌の外科的治療」 日本赤十字社医療センター 幕内 雅敏	16:50~17:50
18:00	懇親会	18:00~

プログラム

I 肝切除手技：私の手法、工夫

(口演5分、討論3分)

9:05~9:53

座長：熊本大学 消化器外科 別府 透
聖マリア病院 谷脇 智

- I-01** 肝細胞癌に対する肝切除術 –最近の傾向–
長崎大学 移植・消化器外科 蒲原 行雄 他
- I-02** 当科における肝切除術の新しい工夫 –より安全な手術を目指して–
熊本大学医学部附属病院 消化器外科 太田尾 龍 他
- I-03** 肝部下大静脈背側に発生した巨大褐色細胞腫の一切除例
九州大学大学院 消化器・総合外科 池上 徹 他
- I-04** 犠牲的肝切除を伴う尾状葉切除の適応と問題点について
鹿児島大学 腫瘍制御学・消化器外科学 迫田 雅彦 他
- I-05** Liver hanging maneuver が有用であった
下大静脈浸潤合併肝内胆管癌の1切除例
飯塚病院 外科 安部 智之 他
- I-06** 肝細胞癌に対する担癌領域門脈先行クランプによる肝切除術
宮崎大学医学部 腫瘍機能制御外科 近藤 千博 他

II-A 肝臓一般

(口演5分、討論3分)

9:53~10:25

座長：長崎大学 腫瘍外科 七島 篤志

- IIA-01** 肝切除後早期に門脈腫瘍栓を伴う多発再発を認めた肝細胞癌の2例
久留米大学 外科学 酒井 久宗 他
- IIA-02** 肝障害度 B 肝癌に対する手術成績の検討
福岡市民病院 原田 昇 他
- IIA-03** 肝細胞癌の外科治療における断端再発率の比較についての検討
伸和会 延岡共立病院 外科 赤須郁太郎 他
- IIA-04** HE 染色所見と免疫染色結果に乖離を示す肝癌2症例
国立病院機構九州医療センター 肝臓病センター外科 立石 昌樹 他

II-B 肝臓一般

(口演5分、討論3分)

10:25~10:57

座長：国立病院機構九州医療センター 肝臓病センター外科 高見 裕子

- II B-05** 肺癌術後肝転移で肝切除が有効であった1例
長崎大学大学院 腫瘍外科 田中 研次 他
- II B-06** 肝転移巣の切迫破裂を契機に診断された
胃原発 hepatoid adenocarcinoma の一例
佐賀大学医学部 一般・消化器外科 浦田 雅子 他
- II B-07** 転移性肝癌焼灼術症例の治療成績の検討
宮崎大学医学部 循環呼吸・総合外科学 仙波 速見 他
- II B-08** 転移性肝癌との鑑別が困難であった sclerosing hemangioma の一切除例
九州大学大学院 消化器・総合外科 武石 一樹 他

Ⅲ 診断治療の工夫

(口演5分、討論3分)

10:57~11:29

座長：大分大学 第1外科 太田 正之

- Ⅲ-01** アシアロ SPECT-CT fusion が切除率評価に有用であった
高度肝機能障害を持つ肝細胞癌の1例
熊本大学 消化器外科 木藤 雅文 他
- Ⅲ-02** 肝静脈内腫瘍塞栓 (Vv3) を有する肝細胞癌に対し
一時的肝静脈バルン閉塞下 TACE を施行した1例
福岡大学医学部 放射線医学教室 野々熊真也 他
- Ⅲ-03** 肝細胞癌の新しい腫瘍マーカーの試み ー尿中ミッドカイン測定の意義ー
産業医科大学 第一外科 岡本 好司 他
- Ⅲ-04** 高度進行肝内胆管癌に対し全身化学療法を施行し根治切除を施行した1例
大分赤十字病院 外科 伊藤 心二 他

教育講演 11:30~12:10

座長：山下 裕一(福岡大学 外科学講座消化器外科)

「肝細胞癌治療における連携」

久留米大学医療センター

田中 正俊 先生

IV 皆さんに聞きたい：この症例どうする？

(口演5分、討論3分)

13:10~13:42

座長：鹿児島大学 腫瘍制御学消化器外科 上野 真一

IV-01 両葉多発肝細胞癌に対する肝切除の2例

鹿児島大学 腫瘍制御学消化器外科

久保 文武 他

IV-02 体外肝切除にて切除し得た若年女性に発生した巨大肝細胞癌の1例

九州大学大学院 消化器・総合外科

杉町 圭史 他

IV-03 腹腔内および縦隔内に多発性のリンパ節転移を疑われた混合型肝癌の1例

九州がんセンター 消化器外科

山下 洋市 他

IV-04 肝内胆管癌との鑑別が困難であった肝 granulomatous abscess の1例

大分大学 第1外科

平下 禎二郎 他

II-C 肝臓一般

(口演5分、討論3分)

13:42~14:14

座長：豊見城中央病院 外科 伊佐 勉

IIc-09 神経内分泌癌への分化を伴う肝細胞癌の1例

飯塚病院 外科

梶山 潔 他

IIc-10 硬化型肝細胞癌の2切除例

県立宮崎病院 外科

濱田 剛臣 他

IIc-11 肝細胞癌に対し集学的治療後左肝切除術を行ったところ 切除標本の病理検索にて日本住血吸虫感染を認めた1例

熊本大学大学院 消化器外科学

中川 茂樹 他

IIc-12 胆管内発育型肝細胞癌の1切除例

佐世保市立総合病院 外科

阿保 貴章 他

II-D 肝臓一般

(口演5分、討論3分)

14:14~14:54

座長：佐賀大学 一般・消化器外科 三好 篤

- IID-13** Meloxicum (モービック) が肝細胞癌の発育増殖過程を抑制した？と推察された3例
国立病院機構九州医療センター 肝臓病センター外科 高見 裕子 他
- IID-14** 集学的治療を行った StageIVB 胆管細胞癌の1例
麻生飯塚病院 外科 播本 憲史 他
- IID-15** 肉腫様変化を伴った肝内胆管癌の1切除例
佐世保中央病院 外科 重政 有 他
- IID-16** 胆管との交通を認めた胆管嚢胞腺癌の1切除例
中津市立中津市民病院 外科 岸原 文明 他
- IID-17** Kartagener 症候群 (完全内臓逆位症) を伴った肝細胞癌の1切除例
新古賀病院 高尾 貴史 他

V 九州における肝移植

(口演5分、討論3分)

15:10~15:42

座長：九州大学大学院 消化器総合外科学 武富 紹信

- V-01** 長崎における肝移植
長崎大学大学院 移植・消化器外科 江口 晋 他
- V-02** 左肝グラフト移植における静脈グラフトを用いた尾状葉短肝静脈再建
福岡大学医学部 外科学講座 消化器外科 山内 靖 他
- V-03** 生体肝移植における後区域グラフト採取の手術手技
長崎大学 移植・消化器外科 高槻 光寿 他
- V-04** 生体肝移植後に臍頭十二指腸切除術を施行し得た二症例の検討
九州大学大学院 消化器・総合外科 (第二外科) 戸島 剛男 他

ラウンドテーブル

VI C型慢性肝炎後肝細胞癌に対する治療戦略

(口演6分、総合討論28分)

15:42~16:40 座長：国立病院機構九州医療センター 肝臓病センター外科 才津 秀樹
国立病院機構長崎医療センター 外科 藤岡ひかる

VI-01 C型慢性肝炎を伴う肝細胞癌切除症例の検討

長崎大学大学院 腫瘍外科

飛永 修一 他

VI-02 C型肝炎合併肝細胞癌の臨床病理学的特徴と治療戦略

国立病院機構長崎医療センター 外科

田淵 聡 他

VI-03 C型肝炎肝細胞癌の臨床的特徴とその治療経過についての検討

福岡市民病院 外科

合志 健一 他

VI-04 C型肝炎に対するIFN療法SVR後に発生した肝細胞癌切除例に関する検討

九州大学大学院 消化器・総合外科

祇園 智信 他

VI-05 HCV関連肝細胞癌に対する治療戦略

佐賀大学医学部 一般・消化器外科

三好 篤 他

特別講演 16:50~17:50

座長：草野 敏臣(新古賀病院 外科)

「肝細胞癌の外科的治療」

日本赤十字社医療センター

幕内 雅敏 先生

一般演題抄録

I 肝切除手技：私の手法、工夫

II 肝臓一般

II-A

II-B

II-C

II-D

III 診断治療の工夫

IV 皆さんに聞きたい：この症例どうする？

V 九州における肝移植

ラウンドテーブル

VI C型慢性肝炎後肝細胞癌に対する治療戦略

I-01 肝細胞癌に対する肝切除術 ー最近の傾向ー

長崎大学 移植・消化器外科

○蒲原行雄、江口 晋、高槻光寿、山之内孝彰、日高匡章、宮崎健介、猪熊孝実、朝長哲生、木下綾華、黒木 保、田島義証、兼松隆之

【目的】 近年の当科における肝切除症例の特徴と変動を検討する。

【対象】 1991年から2007年までに施行した肝細胞癌270例を成人肝移植導入の2000年以前と以後について検討した。項目は1)背景因子として症例の年齢分布、肝炎ウイルスの関与、肝予備能、2)腫瘍因子として最大腫瘍径、個数、脈管侵襲、3)手術因子として術式、生存率、出血量、肝切除に起因する合併症、その他の合併症である。

【結果】 2000年以後の治癒切除例において1)背景では症例の年齢ピークが60台から70台にシフトした。肝炎ウイルスはウイルス不明のものが増加傾向を示し、予備能不良例が減少した。2)腫瘍因子ではvv陽性症例が増加傾向にあった。3)手術因子では系統・非系統切除で生存率に差は無く、出血量(中央値2,200vs1,100ml)、同種血輸血率は減少した。肝切除に起因する合併症は減少傾向だが、せん妄発生は増加した。

【結論】 当科における2000年以後の肝細胞癌切除は、生体肝移植手術手技の導入等でより安定したものとなった。一方、症例の高齢化とそれに伴う肝切除以外の合併症の増加、背景肝や腫瘍の性質変化の徴候が認められるため、今後はこれらへの対応が課題である。

I-02 当科における肝切除術の新しい工夫 —より安全な手術を目指して—

熊本大学医学部附属病院 消化器外科

○太田尾龍、別府 透、堀野 敬、小森宏之、増田稔郎、林 洋光、
岡部弘尚、ハ斯塔、高森啓史、馬場秀夫

【はじめに】 術中出血や輸血、手術時間の延長は肝切除術後合併症発生のリスクを高める。われわれは術式を改良し、また新たな deVlce を積極的に取り入れることで、手術侵襲の軽減が可能であったので報告する。

【対象】 2000年1月から2008年4月までの肝切除例519例（肝細胞癌365例、肝内胆管癌45例、転移性肝癌79例、その他30例）のうち、原発性肝癌取扱い規約で Hr 2 or 3の169例を対象とした。2004年までをI期に、2005年以降をII期に分類し、手術時間、出血量、輸血量等を比較した。

【手術手技】 グリソン鞘一括処理、選択的血流遮断、Out-flow block を考慮した切除範囲の設定、血管用自動縫合器による脈管処理、Tacho-comb による止血はI期から一貫して行った。2005年に hanging maneuver を導入し、precoagulation を併施した。

【結果】 平均腫瘍径と切除肝重量はI期の6.2mg、582g からII期の6.7mg、719g と増加しており、手術の難易度は上昇していた。平均手術時間と出血量はI期の509分、1,321g からII期の478分、825g と有意な改善を認めた。術中血液製剤の使用頻度はMAPで29%から21%、FFPで39%から17%と有意に減少した。

【結語】 術式の改良と新たな deVlce の導入により、より安全な肝切除が可能となった。

I-03 肝部下大静脈背側に発生した 巨大褐色細胞腫の一切除例

九州大学大学院 消化器・総合外科

○池上 徹、武富紹信、副島雄二、祇園智信、杉町圭史、井口友宏、
植田 茂、森田和豊、福原崇介、梅田健二、戸島剛男、武石一樹、
前原喜彦

【はじめに】褐色細胞腫は、カテコールアミン分泌性の後腹膜腫瘍である。外科的治療が第一選択であるが、その発生部位及びカテコールアミン分泌腫瘍という性質上、実際の手術手技は必ずしも容易ではない。今回我々は、肝部下大静脈背側の巨大褐色細胞腫に対し、一時的自己肝全摘・同所性移植も視野に入れた一切除例を経験したので報告する。

【症例】40歳台男性。拍動性頭痛を主訴にて受診、腹部CTにて約16cm大の後腹膜腫瘍を肝部下大静脈背側の後腹膜領域に指摘された。腫瘍の頭側は下大静脈靱帯背側、尾側は腎静脈背側、左側は大動脈レベルに達し、肝・下大静脈及び肝十二指腸靱帯を強く前方に圧排していた。血中・尿中カテコラミン高値、副腎髓質シンチでの異常集積から、褐色細胞腫と診断した。

【手術】肝冷保存装置・静脈バイパスを準備の上で実際の手術を行った。開腹後、肝臓を右側から脱転、下大静脈のテーピングを行った。腫瘍は被膜に覆われ、周囲との境界は明瞭であった。下大静脈温存下での腫瘍摘出を試みるも、腫瘍の圧迫に起因する発作的高血圧を認めた。そのため、自己肝摘出は行わないものの、肝下部下大静脈を一旦離断した上で、巨大腫瘍を周囲より剥離、摘出した。下大静脈は端々にて再建した。

【まとめ】後腹膜褐色細胞腫に対する実際の手術手技は必ずしも容易ではない。サイズや発生部位によっては、一時的自己肝全摘等まで視野に入れた手術プランが必要である。

I-04 犠牲的肝切除を伴う尾状葉切除の適応と問題点について

鹿児島大学 腫瘍制御学・消化器外科学

○迫田雅彦、上野真一、久保文武、樋渡清司、立野太郎、新地洋之、
又木雄弘、蔵原 弘、夏越祥次

肝尾状葉腫瘍に対する手術は多様で、術式選択に苦慮する。一般的には腫瘍が尾状葉の傍下大静脈部(CP)または全領域に及んでおり、肝機能が良好であれば犠牲的肝切除が適応とされるが、経験してみると解剖学的な煩雑さより、色んな問題点に遭遇する。今回、最近経験した犠牲的切除を伴う尾状葉切除5症例より、その術式における問題点、適応について検討してみた。

症例1) CPに2.3cmのHCC。ICG:15%。中央二区域切除+尾状葉亜全摘。

術中、後区域の変位により右肝静脈の還流障害を認め、門脈圧上昇による脾被膜損傷部からの出血より脾摘を追加。

症例2) CPに1.3cmのHCC。肝障害度:B、ICG:21%。S4切除+尾状葉亜全摘。S4と尾状葉のen block切除は不可より分割切除。

S4と尾状葉のen block切除は不可より分割切除。

症例3) CPに4cmのFNH。ICG:2.4%。拡大左肝切除+尾状葉全摘。特に問題なし。

症例4) CP～Spiegel葉に4.5cmの転移性腫瘍。ICG:12.5%。左肝切除+尾状葉亜全摘。外側区域切除後、尾状葉切除を試みたが、CPを切除しえず、内側区域を追加切除し尾状葉切除。

症例5) CP～Spiegel葉に5cmのHCC。ICG:18%。拡大左肝切除+尾状葉亜全摘。特に問題なし。

【結語】 CPに存在する尾状葉腫瘍に対しては、肝予備能が良好であれば、安全性の面からも犠牲的切除を惜しまず行うことが重要と思われた。

第30回九州肝臓外科研究会

発行者：草野 敏臣

発行日：2008年7月10日

発行所：〒830-8577

福岡県久留米市天神町120

医療法人天神会 新古賀病院 消化器外科

第30回九州肝臓外科研究会事務局 草野敏臣、高尾貴史

TEL:0942-38-2222 FAX:0942-38-2255

印刷：Next COMPANY **Secand** 株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F

TEL:096-382-7793 FAX:096-386-2025